

第5回新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会議事録

平成20年6月5日(木)

午後6時30分から午後9時まで

辻高等学校 研修会館

【協議題】 「新しい学校の教育について」

【協議】

委員

前は「新しい学校の教育」について、ご協議いただきましたが、再度、事務局より説明して欲しいとの意見がございました。こうしたことから、今回は「新しい学校の教育について」再度、事務局に説明していただき、協議してまいりたいと考えます。

それでは、まず、事務局の方で、前回の意見整理をお願いします。

「第4回新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会における意見整理」の説明

委員

ただ今の、前回協議の意見整理に基づき、協議してまいりたいと思います。

委員

前回欠席しておりまして、内容が十分把握できておりませんが、議論等については、事務局より議事録を拝見させていただきました。

私がどういう考え方を持っているのか申しあげたいと思います。一つは、池田高校普通科の学級数減についてですが、学級数が少なくなると、様々な問題が出てきますので、どうすればよいか考えていく必要があります。もう一点は、辻高校普通科の総合文理コースと、池田高校普通科ですが、両校とも特色をしっかり持つ必要があります。辻高校については協議していますが、池田高校も魅力ある普通科教育を考えなければいけません。

池田高校は、大正11年創立の伝統ある学校であり、素晴らしい人材を多く輩出しています。そうした実績を踏まえ、レベルの高い国公立大学に多数合格できるようにするなど、魅力や特色をしっかり出して欲しいと思います。地域協議会からの報告書には、そういうことは書けないかと思いますが、私の思いとしては、池田高校の進学体制を強化してほしいと考えます。また、それに必要な新しい学科もご検討いただきたいと思います。

委員

前回の協議会では、池田高校の普通科について、いろいろなご意見をいただきました。

新しい高校の普通科をどうするかについて議論することは、三好地域の普通科をどうするかという問題に繋がってきます。このことからすれば、池田高校の活性化策や、地域の普通科教育と職業教育の中での役割分担を考える必要があるということが議論されました。また、三好地域全体の少子化により、池田高校のクラス数が少なくなっている状況の中で、急ぐべきとの意見もありました。

この協議会は、三好高校と辻高校の統合を考えていく場ですが、池田高校についても何らかの活性化や新しい学科も含めた形での検討を早急にしていく必要があるというようなことを、付帯事項という形で付け加えたいと思います。それでよろしいでしょうか。それではそのようにいたします。

それでは続いて協議してまいりたいと思います。意見整理では、「総合選択制」について、「普通科、農業科の枠を超えた総合選択制について検討すべきではないか」との意見がありました。こうした意見を踏まえ、「総合選択制のあり方」などについて、事務局、説明して下さい。

「総合選択制について」の説明

「設置学科・コースについて」の説明

委員

ただ今、総合選択制、設置学科・コースについてそれぞれ説明がございました。この協議会の中で、今日は一番大事なところを議論することになると思います。教育の根幹に関わるテーマでございますので、皆さんからいろいろな意見を出していただいて、十分な議論を尽くしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員

教養実践コースと情報ビジネスコースはかなり良く似たコースだと思うのですが、教養実践コースは文化系で、情報ビジネスコースは商業系だということは分かります。それ以上にもっと根本的に違う点はどのような点なのかご説明をお願いします。

事務局

情報ビジネスコースの方は、三好高校の「ビジネス」を普通科コース制の中に取り込むということで、情報、商業教育に重点をおき、資格取得を目指していきます。また、就職や上級学校への進学を目指すコースとなっております。

一方の教養実践コースは、現在の辻高校の人文教養コースをベースにしたもので、教科でいいますと、国語、社会、英語の単位数が多く、文系科目を中心として学習するコースとなっております。ただ

し、教養といいましても、実践的な教養を身につけることが必要だと思われるので、そういう点で情報発信能力、コミュニケーション能力の育成に力を入れたいと考えてコースを設定しております。

情報分野は少し重なるのですが、情報ビジネスコースではビジネスや商業に重きを置き、教養実践コースの方は社会で役に立つ実践的な教養を身につけるということで、コースの目標や内容は、かなり違いがあるのではないかと考えております。

委員

食糧自給率や食の安全・安心など、様々な課題がある中で、いかに地域に根ざし、地域を支える人材を育成するののかということが、新しい高校では重要だと思います。

県外の私立高校では、野球の技術の高い生徒を集めるなど、生徒募集でいろいろ努力しております。

公立の高校ではできないのでしょうか。総合文理コースだとか情報ビジネスコースだとかありますけれども、そういう言葉だけにならないよう、よく考えていく必要があると思います。

委員

何かを教えられて暗記するというだけでなく、自分たちで問題意識を持って取り組み、自分たちで掘り下げてみるという、そういう問題認識、積極性や探究心などを備えた人材を企業や大学も求めています。だから、学力だけでない選考方法で、人材を集めている。そういう時代だと思います。

委員

三好高校は、森林が豊富な環境なので、特に森林関係について教育していますが、いま砂漠化が進行している国の緑化運動に参加できるぐらいの人材を育成しなければいけないと思います。

また、食糧自給率の問題など、国の存亡に関わる問題が山積している現代ですが、新しい高校は、そういった様々な視点で、農家や農業を支えていける人材を育成する必要があると思います。

委員

新しい学校の中で、農業教育という形を残していくわけですが、三好高校 80 名の生徒のうち、60 名の子どもたちが就職します。

高校を卒業してすぐ実社会に出て行く。そういう子どもを大切にすることが新しい学校に必要なことだと思います。幸いなことに、三好高校を卒業し地元就職したい子どもが半数はいます。そういう子どもが就職できるような支援が、新しい学校でできていくというのは大きなことだと思います。

新しい学校の専門教育として、高校を卒業した子どもたちの就職というのを、しっかり捉えたカリキュラムや中身を持っているということは、大切なことだと思います。

委員

社会で生きていく中で、そういう価値観を持つということ、そういう志や哲学を持つのは、実践から出てくるものだと思います。

そういう意味からすると、職業科を持った新しい学校というのは、そういう自らを高められる他の高校と違った色々な味が味わえる学校になるのではないかと思います。

県教育委員会

私どもがここに書かせていただいている「地域に根ざし」ということで、今の学校の状況を考えますと、「地域の方に支えられて」という視点がより大切な要素になってまいります。

いまご指摘がございましたように、国際化や情報化という視点を持って、私どもは教育をしていく必要があるのではないかと考えております。ただ、いきなり国際化、情報化というのではなく、日常の実践を通して、そういう力を培っていく必要がございます。

地域の特徴を生かして、今ご指摘をいただいたような、人作りができないかと私どもも考えておりますし、そういう意味で地域の皆さんのご意見をいただいて、教育の在り方の参考にしたいと思っております。

委員

「森林環境科」ですが、県下でこういう学科は、他の高校にもあるのですか。

もし三好高校1校なら、県下全域、あるいは全国からでも生徒募集することを、考えなければいけないと思います。

事務局

現在県下に、分校を含めて、農業教育を行っている学校が5校ございます。その中で、林業教育を専門として取り組んでいる学校は三好高校だけです。ちなみに、造園関係の学科が城西高校神山分校にございます。

委員

三好高校の林業関係が県下1校だということで、目指す学校像の中で、地域に根ざし、地域に信頼されるというのは、県全体を通じた地域なんですか。

それから、コンセプトとして、例えば「時代を拓く志の高い人材を育てる学校」というのを入れてもいいんじゃないかと思います。

委員

平成 18 年 3 月の高校再編方針より、三好高校と辻高校を一つにしたいというのが大前提だと思います。その中で、一番大事なことは、身の丈にあった生き方と経営、つまり身の丈にあった学校づくりをするということです。

新しい学校で、どういうふうにして教育をするか、勉強だけでなく、社会に出ていけるようにするにはどうすればいいのかなど、いろいろ考えた中で、ゆとり教育をやりすぎたことと、平等主義を押し進めすぎたということが問題だと思います。

最近、「職員室だけにクーラーがあるのは不平等で、教室にクーラーがないのはおかしい」という人がいます。僕たちが生徒の時は、大人になったらクーラーがあって、職員室にクーラーがあってもいいじゃないかと思いましたが、今は、生徒も親もそれを許さない。また、昔は、中学でも成績の上位、20 番ぐらいまで廊下に張り出しておりましたし、クラブ活動は、優勝を目指して頑張っていました。しかし、今は「学力向上」にしても、平等でないから張り出したら駄目だといわれます。

三好地区の子どもたちは、たった 17 年後には半分以下になるという試算があります。そうなってくると、数字の上では池田高校の普通科以外の存続は難しい。多分、普通科でも池田高校と辻高校で普通科の生徒の奪い合いが始まります。重大な問題が絡んでいると思います。存続高校をどちらにするかという意見の集約が大事なのではないかと思います。後 10 年経ち、生徒数が少なくなってくると、辻高校の普通科は厳しくなってくると思います。

農業というものを崩すわけにはいかないし、ここ 10 年を考えると、辻高校の方が本校に相応しいと思いますけど、10 年先を見つめると三好高校の方を本校としたほうがよいと思います。

委員

校地については改めて、今後のテーマとして出てくる問題です。

県教育委員会

三好地域については、今回の目的である辻高校と三好高校の再編についてどう思っているのかということ、先ず、地域の方にお聞きし、参考にして計画を作っていこうと考えております。

この地域を含め、徳島県は子どもたちの数がどんどん減ってきています。このままでは、それぞれの高校は弱体化していきます。子どもたちのことを考えれば、やはり再編して、学校規模の確保をするなどの必要がございます。ただ、それは 2 校を 1 校にするということだけではなく、どういう学科なり教育内容を準備して、子どもたちを受け入れる新しい高校にしていくのか。県の教育委員会だけで決めるのではなくて、地域の方の生の声をたくさんお聞きしたい。

今日は、皆様のご意見を十分お聞かせ願って、それを踏まえて考えてまいります。

委員

新しい学校は、どちらがいいのかというところまで協議するのですか、あるいは、最終的には県の方が決めていくのですか。

県教育委員会

最終的には、地域協議会で「報告書」という形で出していただきます。

報告書は、新しい高校はこういう新しい学科を備え、校地はここを中心に展開する、また、地域協議会によって異なりますが、どれぐらいの年度からその方向でやっていく、ということを経済協議会としてまとめていただきます。

今日は、三好地域にとって、どういう学科を作っていけばいいのかということをご議論いただきまして、我々にサジェスションを与えていただきたいと思います。

委員

この協議会では、当初から学校のあり方というか、人間教育のあり方というか、どうすればいいかという教育の原点の話が出ています。その話を積み重ねながら、今回は今日出していただいたように、かなり具体的に農業科と普通科という方向で考えましょうということになったと、私は理解しております。

それで、今日出されたような形の中で、農業科については、一つの科として募集をしたい。それから普通科については、一括で募集をして1年生は同じにして、2年生からコースに分かれるという具体的な案が示されております。

今日はそれについて、これでいいのか、ということをご協議してそれを積み重ねていって、これでいいとなると、次に高校の場所について考えていくということになると思っています。

委員

委員さんが言われたように、どっちの校地を使うのかというのは、我々が協議しなければいけないテーマの中の一つです。

ただ、今どっちを使うかという議論より、先ずどういう教育の内容にするのか、ということを決めた上で、それを実現するためにはこの校舎はある、この校舎はらない、という議論をしないといけないと思います。

生徒数が減っているのです、廃校化という話にもなるじゃないかということが懸念されます。

委員

普通科、農業科を置いた新しい高校を作ることになり、私の考えは決まっております。

農業科の方については、先ほどから話が出ておりますので、よく分かりました。

普通科のコースについては、他校にこのようなコースが4つ揃っている学校はないと思います。このコースのうち、英語について、教養実践コースでオーラルコミュニケーション、総合文理で英語教育の充実という形でもっていきべきじゃないかという意見を、前回も出させてもらいました。

事務局

我々が考えておりますのは、総合文理コースは大学進学希望者に照準を絞ったような教育をしようと考えております。また、教養実践コースは、先ほども説明がありましたが、現在、辻高校の生徒の進路先等を見ましたら、専門学校へ行く生徒が人数的に一番多いです。しかし、最終的に専門学校へ行きましても社会に出ますので、幅広い社会人として通用するような様々な力を養うのが、教養実践コースというふうに考えております。

特に英語に重点を置いた取り組みですが、現在、我々も一生懸命努力はしているつもりですが、生徒の実態等から考えまして、英語コースのように特化したようなコースにした場合、現実的に生徒募集が難しいということで、文系・理系という形にしています。

事務局

補足説明をさせていただきます。

県内にも専門学科として国際英語科ですとか、理系でしたら理数科、応用数理科などを設けている高校がありますが、そういう学科というのは、例えば英語なら英語だけができるような生徒が集まっているかというところではなくて、基本的に、基礎的な学力を持った上で、さらに英語がすぐれているとか、理数系がすぐれているという生徒を対象としたような学科になっております。

本校の場合、現在の生徒の状況は、まずは5教科の基本的な力を身に付けさせた上で、英語を伸ばす、理科や数学を伸ばすという部分は、個別指導で対応しております。

英語を重視したコースなり、理数系を重視したコースなりを設けても、なかなかそれを満たす数の生徒が集まるという状況ではございませんので、大学進学を希望する生徒に対しましては、授業でしっかりと力をつけた上で、5教科以外は個別指導で伸ばしていくということを現在でも行っておりますし、新高校でも引き継いでいきたいと考えております。

委員

その通りなんだと思いますが、新たに作るのであれば「何らかの」という気持ちが私にはあります。

委員

私の意見としては、このいろいろなコースはよく考えてできていると思いますし、森林環境科にす

ごく興味があって、次の学校のポイントになる学科であると思います。

辻高を出られて看護学院に入る方は、そこで必要な資格をとって、この地域で頑張ろうということで行っているのだらうと思います。森林関係の方でも、次に生活を支えていけるようなものに繋がれば、高校を出て家業を継ぐ、そのために必要な資格が取れたらいいのではないかと思います。

高校だけを出て、これだけの資格を取れるのなら、やっぱり親として勧めると思います。

資格を取るということは、あるラインをクリアしていることになるので、取得したらいいと思います。その中でも、例えば健康福祉コースで、ホームヘルパー 2 級のことだと思いますが、もし 1 級が取れば、その管理者になることができます。1 級が取れる方向に授業を組めることができれば、生徒を呼べるのではないかと思います。

もう一つは、英語ですけど、別に英語科をここに作る必要はないと私は思います。

けれど、この内容を見たときに、県内で他にやっている所があるかどうか分かりませんが、英検じゃなくて TOEIC を受けるようにして、就職なり進学で、これだけの点数が取れるということで生徒を引き寄せることができるかもしれません。私はむしろ英語の力というのはそういうのではないかと思います。また、卒業してパソコンができるのは最低条件だと思います。大学のレポートを出すにしても、どんな仕事をして、必要だと思います。

県教育委員会

TOEIC につきましては、経年でどのくらい英語力が上昇しているかを見たり、それを励みにして教育をしている学校があります。

ホームヘルパー 1 級ですが、こういう上級の資格になると、教育課程にかなりの縛りがあり、専門の単位数をかなり設定しなければいけませんので、教育課程の編成の仕方を考えなければ、その設置に向けては難しいと思います。つまり、コースですと、2 年から専門になりますので、そういうことの検討が必要かと考えております。

委員

設置学科は申し分ないと思います。その中に総合選択制を導入するという案件が入っていますが、私はこれで十分ではないかと思います。しかし、なおよく意見を聞いて、手直しをしたいと思います。それで、普通科の 4 つのコース、農業科の 2 つの学科については、私は賛成です。そういう方向でお話をいただけたらと思います。

なお、教育内容については、先ほどちょっと出ましたので、これについては県教委でなおご検討をいただき、入れていただくことがあれば入れていただく、無理であれば、それは無理だということをおっしゃっていただけたらいいのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。

委員

今日、結論を急ぐのではなくて、まだ十分な時間がございますので、意見を出していただきたいと思いますが、確認という意味で、前回、委員さんから「選択制は自由でいいじゃないか」というお話がございました。今日説明がありましたが、大学科内での総合選択と、大学科を越えての総合選択という方法もあるという2つの説明がございました。

今提案されている総合選択制は、私は（学科の枠内で従来の高校と比較して多様な選択科目を設置したもの）の方の総合選択制という提案だと思います。農業科の中で、「食農科学科」と「森林環境科」の形だと思いますが、その所を確認し、委員さんの前回のお話の意図もそういう所でしたでしょうか。

委員

様々な大学で、おそらくそうだと思いますが、1年には授業を全部受けて、2年や3年で選択に入ると、その人に適性というものが出てくると思います。個性というのかもしれませんが、この子は農業向きだとか、この子は保護者と相談してこっちになるとか、それを選択する期間というか、それが1年なら1年、2年なら2年、そういう中で、向き不向きで考えていくと、本人もそういう感じになってくるかもしれません。

例えば、理数が苦手な人は「これはついていけない」、「自分の特徴はこれだ」ということとか、農業関係に興味湧いてくるとか、ビジネスがいい、ということになればそういう方向に行かせるという選択肢ができていいのではないかと思います。

委員

そういう形には今なっていないのですが、そういう意味からすると、2年生でコース選択、進路の専門性ということになると、その学科内でのコース制になります。

学科制ということで、初めからそれを目指して受験をするということで、他の教科は取れますが、学科が変わるというのではないです。

委員

例えば我々が大学へ行かせてもらった時に、他の学科の単位も取りたい。「教育学」の単位も取りたいとするならば、教育学部に夏休みに行くとか、講義を受けて単位を取るとか、そういう形を定義してもいいのではないかと思います。

放課後、進学したい人は、進学コースで勉強するというのも一つの手なんですけれども、植物でも早生と晩生があるように、晩生で伸びる子はそういう専門学科に行っても、やっぱり進学したいという意欲が湧いてくる者がいるかもしれない。そういう進路も開けるといぐらいの選択肢をとるこ

とで発言しています。

委員

委員さんがおっしゃっているように、2年次から自分の進みたい所へ分かれるという考え方もあります。しかし、それでは農業教育自体が希薄になりますので、普通科、それと農業科という中で、お互いがその力を新しい学校で出していこうという視点でいくと、やはり、各科の中で子どもたちが自由な選択をしていくのがいいと思います。

農業というのは、その中で2つの科を固定してやっていこうという形が、一番力が発揮できるのではないかとこのことを前回話をさせていただきました。

2つの学科の相互乗り入れの選択というのは、これからやっていかなければいけないことだとは思いますが、1年生からの積み上げというのを農業教育では大切にしますので、農業科では募集の時に意識を持った子を集めて、1年生から育てて行きたいということがあるわけです。

全部の生徒たちを集めて、選択できるのが理想ですけれども、理想と現実の差でうまくいかない部分があります。例えば、Aという学校でくり募集という形で150人を募集して、2年次に分かれる時になかなかうまく分かれなくて、凸凹になります。そのまま凸凹でやっていくのかということで難しいと思います。

選択時に、子どもたちが理想に燃える部分と、そうでない部分がありますので、教育内容ではなく、「あの先生は嫌だから」「単位が取れにくそう」となったら希望が少なかったりします。

委員

私の意見は最初に言った通りで、参考までの意見としていただけたらと思います。

委員

この案でお願いをしたいと思いますが、特に現在の三好高校の林業関係ですが、県下に1校しかない。しかもその生徒は、80人の中の20人は進学をしています。その20人をしっかり教育してほしいと思います。

その中身は何かというと、総合選択制を導入して進学に関する科目をするというのが非常にポイントだと思います。林学部とか林業関係の大学を出て、県庁に入る人材を育成する。そこをしっかりとやるのが三好高校といえますか、今度できる高校の森林環境科の大きな特色になると思います。優秀な人が集まり、そこを出て大学の農学部へ行く、そして徳島県庁の職員になっていくというルートがしっかりできると、本当に強いものだと思います。

委員

この案は非常によくまとめられています。レジメの中で、統合された新高校について「1年生では一緒に授業を受けて、自分に合った適切なコースを見つけ、2・3年生で分かれていく」という意見と、もう1つは「農業がおもしろいと感じる子どもを育てるには、1年生で一緒に学んで、2年生から専門に分かれるのでは難しいと思う」という意見があり、私も迷うところです。

普通科高校の代替校はたくさんありますが、三好高校の農業を、国の根幹に関わる農業をどうにか残せないだろうかという思いがあります。どちらを選ぶべきなのか私自身も答えが出ないというのが正直な所です。

委員

一番最初、この会が立ち上がった時に、3校を2校にとおっしゃったと思いますが、今日、私が一番思うことは、三好高校の農業・林業をどう残していくか、2校になった場合でも残していけるかということ、ここで残していく協議をして結果を出していくということが、私たちに課せられたものじゃないかと強く感じております。委員から、学科として残していなかったら、それは将来的には残らないということを確認におっしゃってくれていることですので、学科としてきちっと残して行って、放課後なり、クラブ活動なりで交流を図って、子どもたちがいろんなことを学ぶようにすればよいと思います。そこで将来的に農業・林業が残るような形で、今の学科制を大切にしたらと思います。

また、普通科の部分でどうしても総合文理コースと教養実践コースとの棲み分けというものがきちりしたものがなく、その教養実践コースのあり方をもう少し専門的なところから「英語を選んだらこういうものがあります」ということを提示していただいたりとか、実践的なコミュニケーションとか、言葉ではおっしゃってくれたけど、そういうものをどういうふう実践していくのかとか、そういう所を詰めて提案していただいたらと思います。

最も重要なのは、農業・林業をどう残していくか、という所だと思います。

委員

今の意見に関連しますが、普通科と農業科で残る方向は間違いはないと思います。ただ、子どもの数が減っていきますので、今の20ある部活動を10にするなどの問題がでてくると思います。

中学生の進路というものを考える時に、特に西祖谷の場合は、中学校を卒業すると高校へ行っても下宿し、高校を卒業したら祖谷に残る生徒は1人いればいいほうで、先ず出て行きます。ですので、中学校では「生きる力」を身につけなければいけないと思っています。

そこを考えていくと、15歳の段階で、自分の将来を決めるといのはものすごく難しいといえます。でも高校選択の時には、自分の将来を決めなければいけません。そこで決められる子どもは、それぞれの学校・学科を選んでいきます。ところが、まだまだ悩んでいる子がいます。今自分で分から

ないのであれば、普通科の高校を考えてみたらどうだろうか、ということもあります。

その子が普通科に入った時に、教養実践コースを置いていただくと、1年の間に、自分の進路を考える時間ができ救われるというか、その中で、私は大学へ行きたい、僕は何々を勉強してみたいという可能性があるのでは、と思います。

教養実践コースというのは、そういう意味も含めたコースであるのかと思っております。

委員

いまおっしゃった教養実践コースというのが目指しているものが分かりにくいというのが、前回の協議の中でも出てきておりました。

そういう中で、一つの解釈というか、出来上がった一つの形かなと思います。

委員

普通科の4つのコースのうち、「総合文理コース」と「教養実践コース」についてですが、先ほど委員からお話がありましたように、総合文理コースは大学進学を目指すコースであり、目的がはっきりしています。

これに対して、教養実践コースは、基礎学力やコミュニケーションのスキルアップなど、社会に出てから役立つ教養を身につけながら、進路を決めていくといったことが可能で、高校卒業後の進路を決めていない子どもにも必要なコースだと思っています。

委員

今の中で、この教養実践コースを置くことの意味合いというのは、色々な捉え方があるかと思えます。これについても、もう少し掘り下げてみる必要があるのではないかと思います。

また、それとは別に、私から問題提起でありますけれども、商業科が辻高校から三好高校に移りました。そして、農林関係に商業科が入った形になりました。その時に、校長先生が「商業科と農業のマッチングを考えたい」のだとおっしゃっていました。

いわゆる「物を作る」というだけでなく、それを売る、その製造・販売というのが一体化し、かみ合わない成果は出ない。だから、これは非常にありがたい組合せなんだということで、製販一体の新しい教育をしていくという話を聞いた覚えがありまして、その時にそういう発想は大事だと思いました。そういう中で、そういう成果を上げてこられたと思います。

今度の場合に、普通科と農業科ということで、商業の部分が普通科に行ってしまうと、農業科の方から外れます。また元の形に戻るわけなので、せっかく築いた教育成果のいいところの部分を、今度はどう残していくかというその辺りの議論をする必要があると思っております。

委員

総合選択制が（学科の枠内で従来の高校と比較して多様な選択科目を設置したもの）と、（複数の学科やコースの枠を越えて多様な授業を選択できるようにしたもの）とありますが、例えば、普通科で商業や農業を学ぶことはできますよね。それも検討してよろしいですね。

県教育委員会

総合選択制は、生徒たちと十分面談をして、それぞれが進路を見据えた選択がきちっとできないといけないと思います。思いつきで、何でも取っていくというのではなく、先ほど沢山の総合選択科目があったと思いますが、「自分は将来こうしたい」それを1年生で考えさせるわけです。だから、1年は同じような形にして、2年から選択するという形が考えられます。

委員

これについては、委員さんから、いろいろお話ししたいことがいっぱいあると思います。次回のテーマでやりましょう。

よく考えてみると奥が深いというか、色々な問題点があろうかと思います。

今日の意見をまとめていただいて、次回の会にお渡ししたいと思います。

それでは、これで会を終わらせていただきます。

事務局

次回の地域協議会は、辻高校で開催の予定でございますので、よろしくお願いいたします。

本日は、以上で閉会とさせていただきます。ありがとうございました。